

両市の見どころ



盆栽村

盆栽村は、関東大震災により被害を受けた東京の盆栽園主が移り住み、大正14年に誕生しました。以来、盆栽栽培地として国内外によく知られ、海外からの訪問者を含め年間5万人が訪れています。作品の中には、樹齢数百年という盆栽もあります。



サクラソウ

荒川の河川敷にある田島ヶ原サクラソウ自生地は、サクラソウの自生地としては唯一の国の特別天然記念物です。大正9年に国の天然記念物となり、保護されてきました。約4 haの自生地にはサクラソウをはじめ多くの野草が自生しています。



見沼通船堀

見沼通船堀は、東西2本の見沼代用水と芝川をつなぐ長さ1 kmの我が国最古の（1673年）閘門式運河です。井沢弥惣兵衛為永によって享保16年（1731）につくられ、江戸との物資の輸送に大いに役立ち、陸上交通が発展する大正時代末期まで使用されました（国指定史跡）。



岩槻人形

岩槻人形は、江戸時代の初め、日光東照宮の造営や改修に携わった工匠が、日光御成道の宿場町だった岩槻にとどまっ
て人形づくりを手がけたのが最初と伝えられています。今では岩槻市の伝統的な産業として全国一の生産高を誇っています。



時の鐘

時の鐘は、寛文11年（1671）に当時の城主阿部正春が造らせたものです。江戸末期には「岩槻に過ぎたるものが二つある （こだまなんが） 児玉南柯と時の鐘」とうたわれたほどで、その音は、九里離れた江戸まで聞こえたということです。そして、現在もなお、朝に晩に美しい響きで時を告げています。



黒 門

岩槻公園内にある黒門は、かつては岩槻城の城門として威風を誇ったものです。明治初めに浦和に移され、埼玉県庁の正門となり、後に知事公舎の正門にも利用されました。昭和29年、岩槻市に払い下げられ、昭和45年、現在地に移築されました。